

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29 (2017)・1201 NO51

校長 伊波喜一

円くなり 耳そばだてて 聞き浸る 創造の芽の 伸びる嬉しさ

ドラマを見ていたら、こんなセリフが耳に飛び込んできた。食うか食われるかの実業の世界で、業界最大手の幹部に向かって、零細会社の社長は言う。「会社は儲からないと、食べていけない。でも儲かるだけでは、会社は伸びてゆかない。そこからは、絆が生まれこない。絆は、良い物を創ろうという目的に向かって、みんなが団結していく中にしか生まれえない。その絆が、次のビジネスチャンスを引き寄せるんです」と。「公（おおやけ）に資する」というのだろうか。志を高く持つことの意義を、教えられたように思った。話は変わるが、3日間にわたる東京子ども図書館による読み聞かせが終わった。各学年1時間ずつの読み聞かせで、子ども達に直に語っていただいた。子ども達も咳ひとつせず、耳を澄まして聞いていた。読み聞かせという公の空間を共有出来ることは、素晴らしい。言葉という無形のものを核として、聞き浸る場を持つことは、文化を創り上げることと同じである。日常の中に創造の芽はある。その場を意図的に作り上げていく中に、子ども達の学びが深まってゆくのだ。